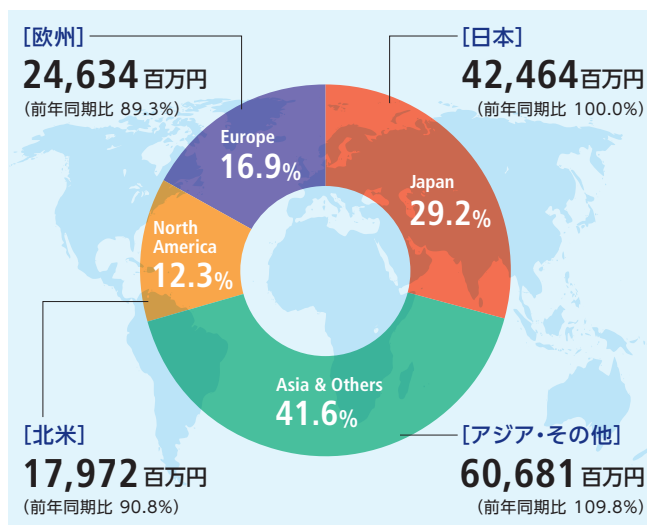


## 業績ハイライト

科目	第2四半期連結累計期間	
	2019年度	2018年度
経営成績		
売上高 (百万円)	145,751	145,116
営業利益 (百万円)	16,662	14,784
経常利益 (百万円)	15,713	14,383
親会社株主に帰属する 四半期純利益 (百万円)	12,731	11,112
1株当たり 四半期純利益 (円)	52.12	45.11

## 売上高の地域別構成比



## 売上高のセグメント別構成比

### システム

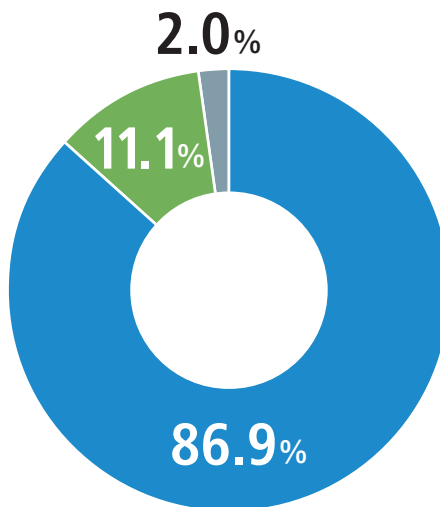
ハンディターミナル、電子レジスター、  
経営支援システム、  
データプロジェクター 等

売上高 **16,185** 百万円  
(前年同期比 90.8%)

### その他

成形部品、金型 等

売上高 **2,868** 百万円  
(前年同期比 78.9%)



### コンシューマ

ウオッチ、クロック、電子辞書、  
電卓、電子文具、電子楽器 等

売上高 **126,698** 百万円  
(前年同期比 102.5%)

合計

**145,751** 百万円  
(前年同期比 100.4%)

## 当第2四半期連結累計期間の業績概要

当上半期における内外経済は、国内では消費増税を控え、個人消費は底堅く推移しましたが、激化する米中貿易摩擦の影響や英国のEU離脱を巡る混乱などにより、景気の減速感が一段と強まり、世界経済の先行き不透明な状況が継続しました。

この環境下、当第2四半期連結累計期間の売上高は、前年同期比0.4%増の1,457億円となりました。セグメント別内訳は、コンシューマが1,266億円、システムが161億円、その他が28億円となりました。

時計は「G-SHOCK」のフルメタル『GMW-B5000』の好調に加え、新製品『GM-5600』などのラインアップ拡大により、グローバルで「G-SHOCK」のメタルが好調に推移しました。また、中国でのプロモーション効果により、Eコマースを中心に「G-SHOCK」の好調が継続しました。「G-SHOCK」以外では、新製品の超薄型モデル「OCEANUS」の『OCW-S5000』や

「EDIFICE」の『EQB-1000』など独自の差別化を図った製品が好調に推移しました。楽器は新製品のSlim&Smartモデルの好調継続、システムは電子レジスターの国内軽減税率対応による需要が拡大しましたが、プロジェクターの教育ソリューション(ES)シリーズの浸透遅れにより減収となりました。

損益につきましては、営業利益はコンシューマが207億円、システムが△5億円、その他が1億円、調整額が△36億円で前年同期比12.7%増の166億円となりました。

時計は「G-SHOCK」の好調により、高収益性を維持、楽器は高収益性のSlim&Smartモデルの拡大と構造改革効果により収益体質が改善しました。

また、経常利益は157億円(対前年同期比9.2%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は127億円(対前年同期比14.6%増)、1株当たり四半期純利益(EPS)は52円12銭と改善しました。

## 通期の業績見通し

為替円高の影響により2019年5月14日に公表した2020年3月期の通期連結業績予想の売上高につきましては、3,150億円から3,100億円に修正いたします。

当グループは今後も全世界で通用する独自技術を生かした新製品の積極的な世界展開により、長期的視点に立った収益力強化、経営・財務体質強化に取り組みます。

### 2019年度通期業績見通し(連結)

売上高	3,100億円(前期比104.0%)
営業利益	315億円(前期比104.1%)
経常利益	310億円(前期比103.7%)
親会社株主に帰属する当期純利益	225億円(前期比101.6%)